

## (ためらう為に)



相手との合意を文書で結ぶ場合に、諸外国であればサイン。日本であれば、サインか押印です。本当かどうか知りませんが、個人印があるのは日本だけだと聞いたことがあります。この印鑑に、一部へこみがあるのはご存じだと思います。

一般には、印を外から、あるいは上から見た場合に印影が見えないので、印の上下左右を正しく書面に当てて、まっすぐに押印できるように設けられた仕掛けだと知られています。しかし、実はこのへこみには、もう一つの重要な役割があるのだと元の会社のある上司から教わりました。教わったので、決して僕の発明、発見ではありません。

それは、押印の前にこのへこみを、印鑑を持った指で探すほんの何秒かの時間がありますが、この一瞬の間に「本当に押しているのか？後戻りはできないんだぞ！いいんだな？」とためらわせるためにあるのだと教えられたのです。

これがその元上司の発明、発見なのかどうかは知りませんが、とても優れた解説だと思いました。

以来、何かことがあり、それを決めるに当たって、文書に押印すること、あるいは必要がない日常的な事柄においても、この印鑑のへこみを頭の中で思い浮かべて、決める前に一瞬、敢えてためらうことにするようになりました。